

第六期長期・調整計画策定委員会 傍聴者アンケート
第7回実施分（令和4年12月23日開催） 自由記載欄
【傍聴者 会場6名・オンライン5名】

○ 今回の策定委員会で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。（傍聴者3名記載）

- ・職員の方の対話力・調整力の育成のために現場に出ることは当然だと思うのですが、現場に出ただけで力が伸びるという話ではないと思います。プログラムを作るのか、あるいはサポートの体制を整えるのか。現場の市民の受け止めに現場の本人ばかりでなく、即時的に職員の皆さんが共有できるような仕組みを整えていただきたいと感じました。
- ・（4）緑・環境：小中学校に設置されている太陽光パネル発電は、基本施策4の中に位置づけられないでしょうか。
- ・（5）都市基盤：委員が仰っていた、赤星邸から古瀬邸までの歴史経緯と街づくりは、ふるさと歴史館の利活用が、コミットできるのではないかと思います。
- ・（6）行財政：本市の財源団体は当時、国の政策の逃げ道で、本来は市でやるべきことであり、特に保育・学童・あそべえの子ども協会は、市の保育、学童育成の良さを保持していると思います。が、一方で、プレイスなど本来の役割が弱っている気がしているのが悩ましいと思っています。（市民活動を推進する、コーディネートする専門職が市職員として少ない）
- ・幻の都市計画「境公園」の話、初めて知りました。計画された歴史的経緯を考えると見直していいのではないかと思います。ここまで取り残されていた事情を知りたいです(単なる興味として)。ふるさと歴史館とコラボとかできないでしょうか。歴史公文書から中島飛行機の事を詳しく調べている認証アーキビストの職員さんがふるさと歴史館にはいらっしやいます。面白い方なので策定委員のみなさんにもぜひ話を聞いてもらいたいです。
- ・都市基盤に「ライフライン整備」「街づくり」が一緒に含まれていて混乱したという委員の発言、六長で都市基盤を担当された委員の方も同じ感想をおっしゃっていたことを思い出しました。
- ・老朽化や、バリアフリー化ができなかったり、公共施設等総合管理計画との兼ね合いもあり事情があるかもしれないが、「古瀬邸を壊すなら赤星邸を残す資格はないのではないか」という問いかけに考えさせられました。古瀬邸は普通に市民が暮らしていた住居だと(ご親族からも)聞いていたので、歴史的背景までは思いも至りませんでした。

- ・行財政 1-3)の「市職員が地域に出てコミュニケーション能力をあげる」議論も印象に残りました。
「市の職員が地域にでると軋轢もうまれる。市民にも納得してもらう必要がある。たった一人をみて市職員全体や施策が良くないと思ってほしくない。市民側の意識の向上や寛容さも必要。お互いが成長していけるモデルが必要。」という委員の意見には一市民として大賛成です。市職員はサンドバッグではないのだから感情的に叩かず、冷静に論理的に意見交換できる武蔵野市民であってほしいです。

○ その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。(傍聴者3名記載)

- ・政策分野を超えた横断的課題を、どこのセクションに書き込むかという話を聞きながら、ガバナンスの現場で、市民の側が感じるフラストレーションを思い出しました。最近の例で言えば、武蔵境駅前南口のミカレット改修のプロセスが官・民・市民の連携協働という枠組みの下に行われたら、さぞよかったのに、なぜうまくできなかったのだろう…としみじみ思います。
- ・行財政改革は、国、総務省の方針が強く、人員削減、民間委託を始めとするネガティブイメージを持っていましたが、第六期長期計画や調整計画策定は、武蔵野市としての新たなチャレンジという話し合いが素晴らしいと思っています。市民と市職員が正しい情報と理解、対話でタッグを組み、コラボしていかないと、より良い市政は築けないと思います。いつもありがとうございます。次回も楽しみにしています。
- ・確かに、コミセンやPTA活動などの中で、職員のかたが3年程度で異動になってしまう事は非常に残念に思ったり、モヤモヤしたりします。反面、仕方がないことだというのも理解していますが、部署が変わってスッパリ関係が切れてしまうのはもったいないことだと思います。そこは市民的に「業務上のつながり」では割り切れない「縁」を感じてしまうのだと思います。だからこそ市職員が地域に出るのは難しいとか、すぐいなくなるくせにと思わずに、部署が変わっても応援し合える関係を築けるようになるといいですね。
- ・策定委員会は毎回興味深い議論が聞けて面白く、こういう考え方もあったのか！と毎回発見があります。市役所で開催されている会議(市議会含む)の中でピカイチの面白さです。オンラインだつてあるのに、傍聴しない市民もったいないです。

※文字及び文章はできる限りアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。

また、委員名については削除しています。